

◆ 第5回ワークショップ 開催報告 ◆

「住んでよく、訪れてよい鎌倉のまちづくり」

平成23年11月27日(日)、鎌倉市役所811会議室で、推進協議会主催・鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会共催により、第5回ワークショップが開かれました。参加者たちは交通、情報、まちの姿などの3テーマを論じる各テーブルに分かれ、世界遺産都市としてのまちづくりに関して、熱心に話し合いました。

今回は60名を超す参加者が集まり、ゲストの建長寺の高井正俊宗務総長や井上蒲鉾店の牧田知江子社長も参加者と熱心に話され、市関係者も多数参加し、以下のような豊かな議論を残す催しとなりました。

【交通】 ロードプライシングやパーク&ライドなどの車交通の抑制手法が語られました。それは折れ曲がりや狭い道の多い鎌倉の、歴史的なまちの構造を残して交通問題を解決する方策を検討するものです。

高井さんは「鎌倉は頼朝時代から入り難くされてきた。渋滞は土日だけだと感じる。課金による渋滞緩和策はアジサイの咲く時期に、まず実験してみてもどうか。お寺と学校が協力し歩道を拡げる声を上げたら」など前向きな意見を出されました。参加者からは「生活のしやすさ、緑保存をとともに考える。交通状況を情報発信する。自転車環境や駐輪場の整備も進める、歩行者に優しいまちづくりを交通施策の原則に、車道を狭め歩道拡幅、低速度で安全を図る。短期と長期の目標を分ける。環境税を取る。商店・社寺・交通システムの連携。人手を市民ボランティアに期待する」などの意見が出ました。

【情報】 ハード分野では「鎌倉駅に今以上の規模の案内所を。ガイダンスセンターは小学生、博物館は高校生、大学生は文化財資料館と、学ぶレベルに合わせた施設を作る。駅近くは入門レベル・遠い所は専門的施設に、御成小講堂をガイダンスセンターにし、出土文化財や歴史を学べる展示を」などの提案がありました。

ソフト面ではインターネットの情報発信や鎌倉フィールドミュージアムの話に続き、「車椅子と歩む会がバリアフリーマップを作っている。手話ガイドをスマートホンで行うサービスも2月に始まる。観光協会ではイヤホンで聞く観光案内を実験している。発信情報を既存団体からネット事業者へ橋渡しする組織が必要。行政と事業者・観光協会・市民団体が協議する場を。



「情報」について討論する各テーブル

ネットの利点は双方向性なので市民訪問者の情報を集約する。個人的な観光ルートやお寺自身の紹介。市民・訪問者がつくる鎌倉マップ。基本的な外国語でweb検索を可能に。人がガイドするボランティアガイドも重要。説明に訂正が必要な石碑もある。武家の古都アピールをもっとする。歴史・文化と同時に津波等の防災情報も提供する」などの意見が出ました。さらに「博物館を作ることはもう何年も話されてきた。検討事項は色々あるが与えられた状況下で思い切りの一歩が必要」という意見も出されました。

【まちの姿】 鎌倉のまちの品性や遺構の上に暮す鎌倉がとり上げられ、「世界遺産登録の意識がどの地域も低く冷めている。町並みに世界遺産にふさわしい統一感がない」「武家の古都と言うが実質は寺社の町、寺社を中心に町が造られ、その延長上に今の町がある」などが指摘されました。

それに対し、「歴史を生かすまちをどう実現するかが基本理念、長い歴史が醸成してきた町を考えるには多面的な議論が必要。多様な表情を持つ懐深さも重視したい。旧市街地と周辺地域、用途地域見直し。公共施設の整備・有効利用。観光都市として市民に説得力あるまちの姿。文化財保護と観光行政、市民生活と商工業という対立の構造を作らない。観光の観念を変える。鎌倉の文化・祭の保存発表。トラスト運動発祥地・侍精神。寺社との関係を地域の核に。関心を持つ人々の心を離さない。まちづくりも行政も利用しやすく分りやすく、清潔な町の実現」などが語られました。

【おわりに】 「世界に鎌倉をアピールするのが大事、そこから4県市一体の議論・協働が生れる。世界遺産登録は観光都市鎌倉が、積年の課題を解決する大きな機会」という意見も出されました。